

れがなくなりました」(団員の宮田道代さん・57)
 「今朝も5時に起きて、公園で稽古してきました」(団員の葛西弘さん・75)
 47名の団員たちはみな、並々ならぬ思いで「さいたまゴールド・シアター」に参加している。勤めを定年を前にやめてきたもの、住まいを埼玉県に移してきたもの……それぞれがそれぞれの事情を乗り越え、これを逃したら、もう二度と巡り合えないチャンスに、自分の今までの人生すべてを賭けている。記者会見のときに発言をした団員の一人、高階菖子さん(70)の言葉にもそれが滲む。
 「『さいたまゴールド・シアター』の募集記事を見て、年齢制限がないことに、空が晴れたような、涼しい風が吹いたような感じを受けたんです。これまで自分のやりたいことを人生の中で何度も中断してきましたから、『さいたまゴールド・シアター』の活動を通して、今度こそ、今までの人生が無駄じゃなかったんだと思えるような人生にしたいと思えます」

この熱き思いが切磋琢磨していく中で、化学反応がおき、更にとてつもないパワーが生まれたとしても何の不思議もない。

僕らはまだ進展していける

レッスン開始から3ヶ月後を目処に発表会を、1年後には公演が予定され、レッスンは現在も日々積み重ねられている。蜷川による演出レッスンでは、2週目からはすでに、二人一組で演技を披露する段階に入った。演技に対する評価はもちろん、アカデミックな演劇論から、具体的な演技指導、脚本の解析まで、一瞬たりとも気の抜けない充実した内容。蜷川自らが演技をしてみせたり、歩き方まで手取り足取り教える場面まで。中には、あの蜷川が、「よかった。実に高度です。大したもんです」と感嘆する組も。どの組も演出プランや舞台セットも自らで考え出したものだ。
 「生き方の違いで演技は変わるの当然。羞恥心のあり方もそれぞれ違うわけだから。自分たちの経験という全財産を使わなきゃ」(蜷川)

今までの演劇経験や、人生を生きてきた中での癖など、直すべき課題を抱えている人に対しても、決してあきらめない。「変わっていける可能性はまだある。何かを発見すると、僕は進展していける」(蜷川)

それはともすれば巨匠として安泰してしまう危険を抱えた蜷川自身が、欲していることでもある。周囲の人間から意見をされることの少ない蜷川にとって、演劇とは違う分野で経験を積み重ねた同世代の人々からの反応は、新鮮で貴重なものでもあるのだ。

こうした濃密な時間から何が生まれてくるのか。「壮大な実験」(蜷川)はまだ始まったばかりだが、早くも大いなる可能性を見せ始めている。



広崎うらん氏によるダンスの授業で。どの団員も真剣で、その表情は発刺としている。



彩の国さいたま芸術劇場の大稽古場で、通常行われている授業。蜷川幸雄の一言一言を聞き逃すまいと、みな、必死だ。

「さいたまゴールド・シアター」『埼玉アーツシアター通信』では、今後6号にわたって、47名の団員すべてをご紹介していきます。役者を目指し、毎日、頑張っている団員にご注目。

団員みなさんへの質問

.....
 1.入団の動機 2.レッスン開始、1ヶ月後の感想
 3.蜷川さんに一言、 4.来年の自分はどうか？

大神 信(おがみまこと)さん 70歳

70歳からの挑戦に、「子供たちから英雄視されている」という大神さん。

- 1.何のために生きているのか？ 生きてきたのか？ それを問い掛けるばかりの日々でした。募集要項を読んだ時、私の人生で神が見せてくれる最後の微笑みだろうと思いました。「生きている限り希望はある」(シラー作「メアリー・スチュアート」より)
- 2.予想通り芝居三昧の生活で充実した日々。今ほど自分の命を惜しむ気持ちを持ったことはない。世界が全く違ってしまいました。
- 3.お互いに残り少ない人生。人生は生きるに足る素晴らしいものに出来ることを演劇を通して表し、生きている限り希望はあると人間讃歌の舞台を後の世に置いてゆきましょう。
- 4.世阿弥の言葉、「時分の花」は咲かせ得なかつたけれど、「眞の花」はきっと咲かせていると思います。

加藤素子(かとうもとこ)さん 59歳

元高校教諭の加藤さんは、自分の退職と募集のタイミングの良さに「幸せ」を感じる日々。

- 1.都立高校に対する都のやり方に憤りとストレスが溜まり、一年早い退職を決め、今までは違う人生を考えていた時、「さいたまゴールド・シアター」の募集記事に出会いました。心が躍り、興奮し、自分が求めていた道だと直感したからです。
- 2.心にも身体にも心地良い刺激があり、毎日ワクワクしています。素晴らしい講師の方々のレッスンを全身で受け止め、できるだけ多くのことを吸収したいと強く思っています。
- 3.去年ではなく、来年でもなく、今年この企画を発表して下さったことに感謝の気持ちでいっぱいです。このチャンスを生かせるよう頑張ります。
- 4.まったく想像がつかませんが、心身ともに若返っていると思います。

宇畑 稔(うはたみのる)さん 71歳

話をしてもいつも演技の話になる宇畑さん。今は蜷川が指摘した登場人物が擬態を演じているところを台本から発見するのに全力を傾ける。「隠れた部分をどう表現するか、それが大切だと思ふ」

- 1.もともと芝居は観るのが好き、演るのはもっと好き。募集には打って響くように参加した永年の夢。
- 2.とても気持ちの良い時を過ごしています。だんだん激しくなることを大いに期待しています。
- 3.毎回、実践に基づいた貴重なお話、感謝していますが、若干長くなるのが……。
- 4.残されたわずかな時間で自分をどれだけ高められるか。かすかな光に輝いていると思います。

小川 喬也(おがわたくや)さん 68歳

児童劇団などでプロとしてのキャリアがある小川さん。当時のお仲間は「その年して、よくやる」と言うが、実際のところ、注目的。「葬式代に貯めていたお金を、『死ぬのは延ばしたから』と、この費用にあてています」

- 1.私は昨年の夏から二トでした。本物の二トさんは、自ら望んでそういう暮らしをされているのですが、私の場合は何もしない日々から、どうしても抜け出したかった。
- 2.本当に楽しい毎日です。もっと言えば、楽しすぎます。でも、人生良いことばかりではないと思います。心を引き締めて一年間の修行に励みたいと考えております。
- 3.オーディション応募の際、膝にハンデがあることをお伝えしました。そんな私を合格に下さったこと、心から心から感謝します。
- 4.どのような形にせよ、舞台上に立っていると信じております。



小淵 光世(おぶちみつよ)さん 60歳

「自分なりに精一杯やったら、さらなる飛躍の為の次の目標を持たせてくださるので難しいです」と蜷川評。

- 1.子供が成長して家庭への責任と義務を果たし、これからはずっと抑えてきた夢に向かって打ち込みたいと思っていました。そんな私にとり募集の知らせは神様のご褒美。蜷川さんの舞台のファンだったので飛びつきました。
- 2.驚きとカルチャーショックの連続です。充実した内容のレッスンで学ぶことの喜びを実感しています。また、メンバーの方々の経歴、半生を伺うのが楽しみになりました。
- 3.チャンスを戴き、感謝しています。レッスンを受けると、自分の中で何か壊れる痛みと、逆に思い込みから解放される喜びがあります。
- 4.目の前の課題で精一杯なのと、日々膨らんでくる不安の中で、想像もつきません。でも、なんらかの形で舞台づくりに携わっていることができたらと願っています。

葛西 弘(かさいひろむ)さん 75歳

教員をしていた頃の教え子が、報道でこの活動を知り、「先生は昔から頑張り屋だったから」と電話してくれたのが、近年にない喜び。

- 1.演劇に多少の関心を寄せてはいましたが、「さいたまゴールド・シアター」公募とその中心が蜷川さんと知れば、休火山が一気に爆発したように、無我夢中で応募しました。
- 2.素晴らしい講師、素晴らしい環境、素晴らしい仲間、さらに行き届いた支援布陣。これほど恵まれた条件の中で懇切な指導を受けられる幸せを感じています。
- 3.蜷川さんだからこそ立ち上げられた。その中に一員として加えて頂いたこと、感謝あるのみです。
- 4.さいたまゴールド・シアターの一員として、楽しく、明るく、無欲に、ただ芝居の虫となって、自分なりの全力投入をしていると思います。

石川 佳代(いしかわかよ)さん 62歳

「蜷川さんの壮大な実験に面白がって加わっているという感じです」という石川さん。

- 1.横浜の財団で、演劇ワークショップやボイストレーニング等の企画をしておりました。本当は自分が参加したかったのです。昨夏、友人にサミュエル・ウルマンの詩「青春とは」の朗読を頼まれ、はまった！感じます。
- 2.楽しい一言。直前まで猛烈に働いていたのでくたびれていたはずが、好きなことをやっているせいか、すこぶる健康的です。せりふ覚えの悪さ、表現の難しさは高い壁です。
- 3.ど素人の私を探ってくださって有難うの気持ちでいっぱい。オーディションが日常の中の「ハレ」の日のつもりでした。戯曲を読み込んで、自分とは違う人格が「いつとき樺みつく」感覚は面白いです。
- 4.脱落せずに一年間やり通すことが当面の目標。一座に加わられたら嬉しいです。

大串 三和子(おおぐしみわこ)さん 72歳

「ダンパーカーに自転車がつかるつもりで」蜷川さんに向き合う日々。「蜷川さんは人間が大きくて、強さも広さもありますから」

- 1.若い時から演劇が好きで役者になりたかったのですが何かと難しく、日本舞踏で舞台に立つのみでした。人生最後の機会に巡り合えた事を喜び、夢をかけて応募しました。
- 2.若い演劇志望者から恨まれそうな賢達な環境と指導者陣に恵まれて、感謝と頑張りなくちゃ申し訳立たないという思いで日々張り切っています。
- 3.機会を与えてくださって有難うございます。もう余り先がありません。あまり頑張って下さっていると間に合いません。びしびしお願ひします。そして決して私より先にダウンさせないで下さい。
- 4.ますます元気に演劇を模索していて、理解した事の一割くらいは表現できるようになれていたらいいなと思います。